

今、欲しいもの、ここにあり。

用の美とこころ「民藝展」 ※展示即売会

会期:2017年8月30日(水)~9月11日(月) (最終日は午後6時閉場)

会場:日本橋高島屋

民芸の愉しみをふたつ。「展覧会」と、「展示即売」を同時に開催いたします。



柳宗悦 (1889-1961)

～美の始まりは、旅にあった。～

日本民藝館創設 80 周年記念「民藝の日本」 (展覧会)

会期:8月30日(水)~9月11日(月) ※最終日は午後6時閉場

会場:日本橋高島屋 8 階ホール

主催:日本民藝館、NHKプロモーション / 後援:日本民藝協会

※入場時間:午前10時30分~午後7時(7時30分閉場、最終日は午後5時30分まで(6時閉場))

入場料(税込):一般 800 円、大学・高校生 600 円、中学生以下無料

～今、欲しいもの、ここにあり。～

用の美とこころ「民藝展」 (展示即売会)

会期:8月30日(水)~9月11日(月) ※最終日は午後6時閉場

会場:日本橋高島屋 8 階催会場 協力:日本民藝協会

高島屋は、民芸と共に歩んで約 100 年。

大正時代末期に、思想家の柳宗悦(1889-1961)を中心に、陶芸家の濱田庄司、河井寛次郎、バーナード・リーチらが提唱した民芸運動は、高価で贅沢な美術品ではなく、名もない工人が作った、日常の生活道具が持つ無意識の美しさを知ろう、という運動でした。

やがて、民芸運動は大きな共感を呼び、柳が、全国から蒐集した民芸品を展覧する「日本民藝館」が **1936 年(昭和 11 年)**、東京・駒場の地に設立されます。

「日本民藝館」を開設以来、優れた民芸品の蒐集や保存、展覧会の活動などがなされ、2016 年 10 月に 創設 80 周年を迎え、本年は、民芸提唱から 90 年を迎えました。

高島屋は当初から民芸の普及を応援してきました。「日本民藝館」の設立に先立って、約 2 万点を展示即売した「現代日本民藝展覧会」を日本橋と大阪の高島屋で開催(1934 年、1935 年)し、日本で初めての大規模催として話題になり、「日本民藝館」設立の機運につながるなど、民芸との関わりは 100 年近くにもものぼります。

今回の展覧会「民藝の日本」と、展示即売会「民藝展」も、そのような経緯を受けて開催が実現しました。

高島屋はこれからも、生活文化を創造し、伝統を継承していく百貨店として、「美しい暮らしのお手伝い」の観点から、誠実につくられた民芸の器や道具をご紹介していきたいと考えています。

展覧会「民藝の日本」の会場では、「民芸」のルーツと、「民芸」の黄金期であった江戸時代後期から、昭和時代(1950 年代頃)に焦点をあて、柳宗悦が日本各地で蒐集した日本民藝館の所蔵品を中心に各地の民藝館の所蔵品を加え 170 点の優品で構成します。また、同時に開催する「民藝展」の会場では、全国の民芸品約 1 万点の展示販売会を行います。

用の美とこころ「民藝展」(展示即売会)について

■会場内 展示・即売会の注目ポイント①: 柳宗悦の民藝運動の継続・実践を担う、「配り手」たち

民芸のこころを伝える「配り手」であり、民芸運動と共に歩み、現在も「民芸のセレクトショップ」として注目を集める3つの名店(鳥取たくみ工芸店、くらしのギャラリー(岡山県民芸振興株式会社)、銀座たくみ)を会場でご紹介して販売するとともに、昭和初期から民芸運動に共感をしてきた高島屋が、今回もバイヤーが各地をめぐり、工人たちと出会って集めた、各地の貴重な民芸が勢ぞろいし、約1万点を展示・即売いたします。

1) 鳥取たくみ工芸店

昭和7年6月に誕生した日本初の民芸店。柳宗悦の民芸運動に共感した吉田璋也が設立し、民芸の美(用の美)を日常の生活に取り入れるため、自らがプロデューサーとなって現代の用途に合わせて新たにデザインや、製作の指導を行い、普及する活動(=「新作民芸運動」)を行いました。鳥取の窯元の器や工芸品などが中心に揃います。



2) くらしのギャラリー(岡山県民芸振興株式会社)

昭和22年設立。終戦後、各地方での民芸運動が活発に動き始める中、創設者の杉岡泰も帰郷した岡山で、初代倉敷民藝館館長・外村吉之介、大原美術館・大原総一郎、天満屋百貨店・伊原木伍郎の協力のもと、天満屋百貨店の売場の一角で民芸品の販売・普及活動を開始。岡山だけにとどまらず、全国の作り手とともに、「今の暮らしに寄り添う民芸品」の頒布活動を行っています。



3) 銀座たくみ

昭和8年設立。柳宗悦、河井寛次郎、濱田庄司、吉田璋也たちにより、地方の民芸品を振興し、現代生活に適したものとして普及するための店として東京・銀座に作られた。日本民藝協会も半年あとに発足し、共同して高島屋での150坪以上の会場を使って、全国から集めた民芸品の展示即売会を1934年に開催しました。その後も80余年にわたって日本や海外の民芸の品やその手仕事を支え、広め続けています。



4) 高島屋のバイヤーが、全国を巡って集めた、日本各地の民芸が勢ぞろい



■会場内 展示・即売会の注目ポイント②: 現代の、民芸の「作り手」たち

愛知県 瀬戸焼 瀬戸本業窯 水野雄介さん

江戸時代の後期の創業で 250 年の歴史をもつ瀬戸本業窯の八代目後継。柳宗悦らと交流のあった祖父、瀬戸本業窯唯一の窯を守った父の思いを受け継ぎ、「伝統を守りながらも新しい時代にあったものを生み出していきたい。」という思いで製造に取り組む。瀬戸本業窯では土地に根ざした

天然の灰を原料に、手作業で釉薬を調合するという昔ながらのやり方を継承、すべて作業は分業制で職人たちが日々繰り返しの修行の中で技術を磨く。職人たちによる日常のうつわ作りを創業当時と変わらず今でも続けている。



島根県 袖師焼 袖師窯 尾野友彦さん

明治 10 年開窯の袖師窯の五代目。

民芸に出会ったのは祖父の尾野敏郎氏の時代。島根を訪問した柳宗悦や河井寛次郎らの思想に共鳴、その後バーナード・リーチが袖師窯に滞在し、製作指導を受けた。



尾野友彦さんが、仕事を始めて約 20 年。リーチの指導に刺激を受けて研究して作った釉薬やろくろの技術など、祖父の時代から受け継いだものに現代のエッセンスを加えた模様。伝統を継承し、今の暮らしにあう器を製作している。

岩手県 浄法寺椀 浄法寺塗・浅野奈生さん

浄法寺の次代を担う作り手。

塗りの美しさに定評があり、現代の暮らしにマッチするモダンなかたちも魅力。

二戸の浄法寺は国内最多の生漆の生産地として知られているが、良質の漆を使った漆器は、使うごとに美しさを増していく。



■会場内 展示即売会の注目ポイント③: “民芸を見て、体験して、感じる”イベントを開催

産地・製作現場を伝えるための動画やパネル展示、トークショー、実演・ワークショップなどを展開いたします。以下の日時は、日本橋高島屋で開催予定のスケジュール(一例)です。

1) ワークショップ

- ・弘前こぎん研究所 こぎん刺し コースター (参加費:2,160 円) 9月1日(金)15時～
- ・須浪亨商店 いぐさ瓶かご (参加費:2,160 円) 9月8日(金)15時～ など...

2) 製作実演イベント 民芸の作り手たちの実演を会場内で見ることができます。

- ・倉敷本染手織研究所 ノッティング製作 8月30日(水)13時～、14時～
- ・瀬戸本業窯 絵付け(馬の目) 9月2日(土)12時30分～、15時30分～ など...

3) トークショー

- ・日本民藝館 学芸部長 杉山亨司氏 8月30日(水)15時30分～
- ・瀬戸本業窯 水野雄介氏 9月2日(土)14時～

4) 「民藝運動フィルムアーカイブ」の貴重な記録映像を公開

カナダ人映画監督 マーティ・グロス氏は、40年以上にわたり日本の民芸運動に関する映像・録音記録を、各方面の協力を得て収集・保存してきました。

これらの記録を修復し、デジタル化をしたうえで、バーナード・リーチ、濱田庄司らのナレーションとともに再構成して、民芸運動を人類の確かな記憶としてとどめようとする取組みが、「民藝運動フィルムアーカイブ」です。

ここには、マーティ・グロス氏自身が、晩年のバーナード・リーチから直接託された貴重な映像フィルムや、録音素材が多く含まれています。

未公開・未発表の記録も多く、それらを通じて柳宗悦や濱田庄司、バーナード・リーチら先駆者たちの活動や、当時のものづくりの現場の様子をうかがい知ることができます。

民芸活動は世紀を超え、国境を越えて受け継がれる、日本の重要な文化運動

です。しかしながら、社会状況の変遷とともに、初期民芸運動に関わった技術の

中には、後継者不足などの問題により、すでに姿を消してしまったものや忘れ去られようとしているものも多く見受けられます。またそれらを記録した古いフィルムも同様に、容赦ない時の経過による劣化を免れることは大変困難です。そのため、これらオリジナルフィルムの修復や、デジタル化が急がれています。

マーティ・グロス氏は、自身のライフワークとしてこの作業に取り組むと同時に、度重なる来日の都度、関係者らへの取材やインタビューを重ねてきました。民芸運動・文化の保存のための助成や寄付などが、その活動を支えています。

この「民藝運動フィルムアーカイブ」は、平成 30 年を目途に一応の完成を見込めるに至っており、完成後には美術館・博物館などで公開するとともに、DVD化や、カナダ・トロント大学との共同事業として、オンライン公開の「デジタルアーカイブ化」も計画されています。

今回は、高島屋で開催する「民藝展」のために貴重な記録映像を新規編集。

バーナード・リーチ本人が撮影した貴重なフィルムや、初公開映像も含めて会場でご覧いただけます。



以上